

り観たる日光「日光」6-111 (1915) 須藤千春; 日光及其附近ニ産スルねこのめさう類植研 10; 252-261 (1934) 東照宮; 「日光の植物と動物」1-620 (1936)

### ○メタセコイアの芽生え (原 寛)

H. HARA: Seedlings of *Metasequoia glyptostroboides*. 近年「生きた化石」として話題をなげ、本誌 22 巻にも前川博士によつて報告された *Metasequoia glyptostroboides* Hu & Cheng (1948) の芽生えをここに紹介する。種子は米國ハーバード大学 E.D. Merrill 博士の御好意によつて、同大学 1948 年度遠征隊が自生地である湖北四川の省境近くで採集送付したものを、直ちに一部を分けて下さつたのである。昨年 (1949) 3 月中旬に東京で播種し、可成り多数蒔いたが 1 ヶ月許経つて僅か数本だけが発芽した。初め胚軸は著しく曲つて土を破るが、やがて直立して対生した 2 箇の子葉をひろげる (表紙のカット参照)。子葉は線形で鈍頭、長さ 8-10mm 幅 1mm 許、質厚く緑色で中肋がある。莖がのびだすと第 1 葉は子葉に接近して対生し子葉と十字状につく。唯 1 例においては 3 枚輪生状につき第 1 葉の附着点が僅かにずれていた。第 2 対以後も交互に十字状に対生し、葉は何れも子葉と殆ど同形である。第 4 対の尋常葉は僅かにずれてつき、その一側の葉腋から勢のよい側枝が横にのびだす場合が多い。稀には両側の葉腋から側枝をだす事もある。第 4 対で一側に側枝をだしたものは一つにおいて第 6 対でその反対側に側枝をだす。かくして発芽後約 2 ヶ月たつた 6 月中旬には高さ 4cm 許になつた。葉は主莖ではほぼ交互に十字状に対生しているが、側枝では葉の附根で捻れて横に左右に開いて出で、全体として羽状に見える。しかし対生が少し互生状にずれる事は珍らしくない。秋季にも生長し、11 月には最大のものは高さ 30cm に達し、莖の基部は径 6mm に及んで皮は縦にひび割れる。枝は長短計 17 本もでて横に水平にひろがり、勢のよい枝が対生して出で長さ 15cm にものびて先端は更に側枝を分つた。生長の盛んな時の主莖の葉は長さ 50mm 幅 2.5mm に及び先端は短鋭頭をなす。11 月末になると葉は概ね紅褐色に変わり、12 月になると落葉する。主莖の頂端や葉腋には楕円体の冬芽ができ、又太い側枝にも処々の葉腋に冬芽ができる。しかし弱い枝は葉をつけたまま枝ごと落ちて莖に白い痕跡を残し、その痕の直下に第 2 次の腋芽がよく發育して冬芽となる。冬芽は淡褐色三角狀卵形の十字状に排列した数対の鱗葉におおわれている。

以上の様にメタセコイアは東京でも発芽第 1 年に於てよく生育する事が分つた。本年は米國で試みられている様に側枝を挿木して増殖を計りたいと思つている。昨年末には我國にもメタセコイア保存委員会が結成され、Chaney 博士の御好意で新たに米國から生苗 100 本の輸入も実現されたので、本植物が我國各地に栽植される日も遠くない事と期待する。